

グッド・プラクティス事例 募集要項

1. 目的 優れたボランティアコーディネーション実践を“見える化”することでボランティアコーディネーターが自身の実践を客観的に振り返る機会を提供するとともに、ボランティアコーディネーション力に対する社会的な認知と普及につなげる。
2. 内容 “ボランティアコーディネーション力”が発揮された実践を募集する。
 - A. 自分（組織）が取り組んだ実践をレポート
 - B. 自分の知っているおススメ実践事例を紹介
 - C. 新聞記事、インターネット、業界誌、広報誌、論文掲載など、既存の媒体から「これはおもしろい！」という実践事例を見つけて紹介
3. 応募方法 エントリーシートに団体や取り組みの概要を記載して、JVCA 事務局にEメール添付で送付する。（A4判1枚程度：様式指定） 送信先：coco@jvca2001.org
4. 応募対象
 - ①日本ボランティアコーディネーター協会会員
 - ②ボランティアコーディネーション力1級・2級合格者
 - ③日本ボランティアコーディネーター協会理事・運営委員等が推薦する団体・人※事例は①②以外の個人・団体のものでもかまわない
5. 募集期間 2019年4月18日（木）～5月31日（金）
6. 審査の流れ
 - ①エントリーシートをもとにグッドプラクティス認定システム化委員会にて書類選考（第1次審査）
 - ②審査を通った団体へのインタビュー（取材）の実施
 - ③実践の文章化（事例集掲載を想定）
 - ④事例をもとに委員会で認定事例を選考→理事会にて承認（第2次審査）
 - ⑤事例提供者による加筆および修正
 - ⑥『グッド・プラクティス事例集 VOL.3』の発行（2019年度は5ケースを予定）
 - ⑦全国ボランティアコーディネーター研究集会2020（東京）での発表・表彰
 - ⑧グッド・プラクティス認定事例報告会の開催
7. 審査のポイント
 - 1 級検定で提案する「包括的なボランティアコーディネーション」の視点にもとづいている
 - ①ボランティアの主体的な参画やモチベーションアップを意識して工夫や仕掛けをしている
 - ②一つの組織や既存の関係機関の枠にとらわれず、分野やセクターを超えて連携・協働している
 - ③問題解決へのビジョンをもち、ボランティア（市民）が関わる積極的な意味や役割を明確にしている
 - ④組織や事業にボランティアを受け入れるコーディネーションと、間に入って人や組織をつなぐ中間支援のコーディネーションの力をバランスよく発揮している